第２回代表者総会兼第5回ワーキングレベル会合

インパクト志向金融宣言の第2回代表者総会兼第5回ワーキングレベル会合が、2023年1月26日(木)10:00～12:30に、対面・オンライン形式で開催されました。当日は、署名機関、国内の賛同機関に加え、本宣言への加盟を検討中の2社のオブザーバーを含む、計72人が参加しました。

第2回代表者総会兼第5回ワーキングレベル会合では、発足一年の現在地と今後の課題の共有、署名機関の挨拶、分科会活動報告のほか、今後の活動について参加者でディスカッションを行い、最後に議案の決議を行いました。

1. 発足一年の現在地と今後の課題

まず事務局の安間より、資料に基づき、発足一年の現在地と今後の課題についてご説明しました（資料1、P3～P9参照）。主なポイントは以下の通りです。

- ✓ 2021年11月の発足後、運営体制の整備や戦略の策定、7つの分科会の立ち上げを進め、本格的な活動を開始した
- ✓ 発足後約1年で署名機関が倍増し、2023年1月時点で44機関となった
- ✓ 2023年1月に初のプログレスレポートを発行、署名機関38社のインパクト投資残高総額合計が3兆8500億円となった
- ✓ 運営委員会を月次で開催し、運営委員、各分科会の座長・副座長に参加頂き、大きな貢献をして頂いている
- ✓ 本イニシアティブのTOCで設定したビジョン、ミッションを実現していくために、本年4月を目処に、具体的な中期計画を策定する

続いて、運営委員会の委員長の三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員の金井氏、及び、副委員長のりそなアセットマネジメント株式会社　執行役員の松原氏より、本宣言は金融機関のみならず様々な分野のインパクトファイナンスの中核プレイヤーが参画し、フラットに議論ができる場となっていることに大きな意味があり、本宣言の取り組みをさらに進めていきたいとのご発言がありました。

2. ご出席者挨拶・新規参加機関の紹介

各署名機関の代表の方、通常のワーキングレベル会合にご出席頂いていない方、及び、2023年1月1日付けで署名した日本生命相互保険株式会社よりご挨拶を頂きました。

ご挨拶では、本イニシアティブへの期待やインパクトファイナンスに関連する自社の取り組み、インパクトファイナンスの国内での拡大に向けた課題等についてご発言があり、主なポイントは以下の通りです。

✓ 本イニシアティブへの期待
- 署名機関間の連携によるインパクトファイナンスの拡大
- 分科会活動などを通じた、インパクトファイナンスの知見の共有

✓ インパクトファイナンスの国内での拡大に向けた課題
- インパクト志向金融経営の推進
- インパクトファイナンスの手法の確立（IMM手法の確立、一般投資家にとって分かりやすいインパクトの開示など）
- アセットオーナー、特に年金基金の参画の促進

3. 分科会からの報告

各分科会の座長・副座長より活動状況を報告して頂きました。

【定義・算入基準分科会】

✓ 定義・算入基準分科会では、プログレスレポートの発行に向けて、インパクトファイナンス残高の算出方法について議論を実施してきた。今後は、次回のプログレスレポートに向けて、IMMの実施状況やマネジメントをどのように測るか等について議論をしていく予定。

【地域金融分科会】

✓ 地域金融分科会のテーマとして、①地域インパクトの底上げのための情報発信、②インパクトを基点とした地域金融機関の融資業務とファンドの投資業務の接合のあり方、③地域インパクトファイナンスの共通指標の検討を設定し、分科会において実際のインパクトファイナンスの取り組み事例や課題の共有を行っている（資料2参照）。

✓ 直近の分科会では、インパクトファイナンスを4象限に分類し、地域金融機関・ファンド等様々な業態の共通点や相違点についての議論を深めたり、インパクトウェディングケーキモデル（仮）を作成し、地域金融の文脈でのインパクトファイナンスの推進策について議論をしている。

【ソーシャル指標分科会】

✓ 環境に関する指標は比較的明確である一方、ソーシャルに関する指標ままだ確立されておらず、社会課題へのインパクトを可視化することを目的として分科会を行っている。

✓ 現在、分科会の中期計画について協議しており、最終目標や目指すべき方向性について検討中。

【IMM分科会】

✓ IMMのお悩みポイントを共有したり、VC分科会との連携で、レクチャー形式で事例も交えながらアセットクラス横断的なIMMの基本形を学ぶ「IMM基礎講座」シリーズを開催した。

✓ IMM分科会が横串的な役割を担いIMMの基本的な理解と普及を進めるという方向性について、現在、各分科会の座長と分科会横断的に議論中。

【海外連携分科会】

✓ 主に、日本のインパクトファイナンスの発展に貢献するため、海外で蓄積されているインパクト投資関連のスタンダードやフレームワークの理解やネットワークの拡充、そして日本の活動を海外に発信していくことを目的として活動している。

✓ これまでに、前者に関してはBlueMarkとのウェビナーやSDGs Impactのダイレクターとの座談会を実施、後者に関しては、後ほど紹介するGIINインベスターフォーラムでの発信を実施して

きており、今後もこのような活動を続けていきたい。現在、海外のトッププレーヤーとの勉強会を企画中であり、ナレッジシェアをしていく。

【VC分科会】

- ✓ VC業界のインパクト志向の追及、及び、よりIMMを実践しやすい環境整備を目的とし、ファーストステップとして、事例の共有・ピアラーニングを通じた実務レベルの知識の引き上げに取り組んでおり、セカンドステップとして、投資ステージ毎・業界毎などに何らかの共通認識・グッドプラクティスカタログを作るなどして環境整備を行っていくことを検討している。

【AO/AM分科会】

- ✓ 他の分科会の取り組み内容を踏まえ、アセットオーナーに向けてインパクト投資の浸透を図っていく方針ではあるが、まだ具体的なTOCの作成には至っていない。
- ✓ 海外事例をそのまま参考にするのではなく、日本の業界環境・事情を把握し、どのようにすれば年金基金を含むアセットオーナーをインパクト投資に巻き込んで行くことができるのか検討していく。大学など研究機関との連携も模索する。

4. ディスカッション「今後の活動について」

ディスカッションに先立ち、事務局より、本宣言の今後の活動についてのこれまでの議論の内容として、資料に沿って、2022年10月に実施した署名機関向けアンケート結果、同年11月に開催した第4回ワーキングレベル会合での議論のまとめ、その後の運営委員会での中期計画策定に関する議論の内容を共有しました（資料1、P15～P21参照）。また、中期計画の策定の進め方について、2月中旬に有志による対面でのブレインストーミングを行い、2～3月の運営委員会にて議論を重ね、4月のワーキングレベル会合に付議する計画であることを説明しました。

その後、「本宣言の今後の活動で実現したい姿は？」「具体的な目標をどうするか？」「中期計画のタイムラインへの意見」「優先度付け」「実現性を高めるためにどのような体制作りが必要か？」「自走化の議論の在り方、スケジュール、方法論」などについて、参加者間で議論を行いました。主な意見は、以下の通りでした。

「中期計画のフレームについて」

- ✓ 本宣言の中期計画の検討にあたり、①分科会としての中期計画、②宣言全体の中期計画（分科会ではカバーできない部分）を分けて考えた方が良いのではないか。
- ✓ 分科会の活動は参加者の自発性による活動だが、宣言全体の活動は署名機関のためだけの共益的な活動（署名機関のインパクトファイナンスの質の向上を目指すなど）とするのか、より公益的な活動（署名機関以外にもインパクトファイナンスという概念を広く広げ、日本全体にインパクトエコノミーを広げていくことを目指すなど）とするのか。

「本宣言の今後の活動で実現したい姿は？」

- ✓ 本宣言のTOCに掲げられているビジョン、ミッションの実現。実現するためにはどうすれば良いかを考える。
- ✓ 共益的な活動に軸足を置きつつ、公益的にどういった価値を生むのかということも考えつつ活動をしていきたい。

- ✓ 宣言文の実行・実現の推進。宣言に署名したということは、組織のトップがコミットしたということであり、宣言文の内容を各金融機関がどのように取り組んでいるかをしっかりと可視化する。
- ✓ インパクトファイナンスに取り組むコミュニティを拡大していくため、本宣言に署名している機関の企業年金基金において、受益者エンゲージメントを行い、実際にインパクト投資を開始しモデルケースを作り、他社に紹介していく。

「具体的な目標をどうするか？」

- ✓ 具体的な金額ではなく、全体のポートフォリオに占める割合としてもよい。
- ✓ インパクトファイナンスの規模について、海外でも全体でいくらという数字の出し方をしており、業態別での目標設定は時期尚早かもしれない。

「中期計画のタイムラインへの意見」

- ✓ インパクトの潮流の変化が激しいため、まずは3年とするのが良いのではないか。3年の中期計画終了後、SDGs目標期間まで残り5年あり、その時点で見直しも可能。
- ✓ 動きの速い世界であり、今後1～3年の計画をしっかり作ることが重要。

「実現性を高めるためにどのような体制作りが必要か？」

- ✓ 各分科会が非常に精力的に活動しており、分科会としての独自性を担保することが望ましい。
- ✓ 分科会の座長を務めているが、分科会の準備・運営に相当な工数がかかっており、会費が発生したとしても、将来的に事務局が分科会の活動も支えてくれる体制が望ましい。

「自走化の議論の在り方、スケジュール、方法論」

- ✓ 現在は、運営委員や分科会座長は自社負担で活動しているが、このままのあり方で良いのか議論が必要。

5. 議案説明・協議

事務局より議案書に沿って議案の説明を行い、参加者間で審議の上、決議されました（資料3参照）。

1. 運営委員の新規任命について
2. 中期計画について
3. 必要最低限の規程の整備について
4. インパクトファイナンスに関連したセミナー等の共催・後援について

6. 今後の予定・事務局連絡

✓　次回のワーキングレベル会合は、2023年4月24日に開催予定です

資料1：第2回代表者総会兼第5回ワーキングレベル会合資料
資料2：地域金融分科会資料
資料3：議案書